

# 園長先生の子育てひろば

令和4年12月

## 走る



園長 山中 文

降園時に、クラスでさよならをした子どもたちが園庭に来ると、なぜか、登園リュックを置いて、2, 3人が走り始めます。何人かでいっしょになって、声をかけあったりじやれあったりして、ぐるぐる、ぐるぐる、とエントランスの柱や柵をうまくよけて走り回ります。

だんだん速く走れるようになる幼児期です。走ることについては、「危ないから走らないよ」と声をかけるなど、安全に生活する上でいかに制限していくかという配慮がよく見られます。一方、屋外では、走ることは運動的な側面から奨励されます。つまり、この時期、走ることは、安全面と運動面の大きく2面からとらえられているといえるでしょう。

ところで、面白いデータが出ていることをご存じですか？

ある調査では、大人からの指示で走るなどの特定の運動指導を行う園と行わない園では、行わない園の子どもの方が、また大人からの指示で遊びを決める園と自分たちで遊びを決める園では、自分で遊びを決める園の方が、運動能力が高いという結果があるようです<sup>1</sup>。総合的な運動能力としては、自分たちで自発的に遊ぶような環境が勝るということかもしれません。

我が家の中男は、よく大学生グループにサークル打ち合わせ後遊んでもらっていました。打ち合わせをじいっと待って、終わるやいなや鬼ごっこをしていました。おにいちゃんたちといっしょに逃げたり声をかけられたりするのがよほど嬉しかったのか、いつも熱が入り、もうそろそろ寝る時間だというのに汗びっしょりになっていました。そして、何度か続くうちに、走るのがとても速くなったことでした。先のようなデータを見ると、その様子がありありと思い出されます。

このような自発的な走りには、いつも人がかかわってきます。香曾我部琢ら(2103, 109)は、ある調査から「“走る”行為は、ただ単に運動的な欲求によって表出す行為ではなく、その”走る”行為を通して他者と相互作用しようとする幼児の心情の現れである」と述べています。先の降園時の走りも、解放感で思わず走りだす気持ちを共有していたのかもしれません。

これらは、幼児期に走ることについて、安全面、運動面以外に、人とかかわって遊ぶという社会的側面から見ていく必要があることを示しています。このような幼児理解が集団教育としてなされているかどうかについては、園選びの視点にもなるかもしれませんね。

\*<sup>1</sup> このことを含めて、子どもの運動能力については、NHK すぐすぐ子育て情報などに、わかりやすく解説されています。<https://www.nhk.or.jp/sukusuku/p2019/802.html#a1>

2022.12.1 参照

\*<sup>2</sup> 香曾我部 琢,高木 恵美子,小岩井 伸 他 (2013)、遊びにおける幼児の“走る”行為の発達的検討とその意味：相互行為としての“走る”行為と意味世界の生成、上越教育大学研究紀要 32、103-110